

# 梶原洋子先生 ご退職にあたって

加藤 純一

梶原洋子先生は2014年3月をもちまして長らく研究・教鞭を執られてきました文教大学をご退職されることになりました。学校教育課程体育専修のあらゆる方面でご尽力され我が教室を牽引してこられた先生が定年を迎えご退職されることは、とても残念なことに思います。体育専修の教員を代表いたしまして、ここに梶原先生を簡単ではありますがご紹介させていただき、感謝の意を表したいと思います。

梶原先生は東京学芸大学学芸学部専攻科を修了後、スポーツ科学の研究を進めてこられました。特に陸上競技のトップクラス選手に対する運動生理（温熱生理）学的見地の研究等を積み重ね、2002年に第5回秩父宮記念スポーツ医・科学賞【奨励賞】受賞、2003年にはそれらの業績が認められ昭和大学医学部において博士（医学）の学位を授与されます。その後、2008年に国際学会（ICHPER・SD 50周年記念世界大会）においてGold Medal of Honorのアワード、2011年にICHPER・SD Biennial Distinguished Scholar Award in Physical Educationを受賞されます。

先生は研究とともにご専門の陸上関係では、日本陸上競技連盟強化委員会及び科学委員会、普及委員会の研究・調査を中心に、世界選手権・アジア大会等のコーチ兼マネージャも務められ、一線級選手の支援に加えて、下記の解説も多く手がけ、文教大学の広報も務められました。その一部をご紹介しますと、全国都道府県対抗女子（NHK：1988～2010）、全国高校女子駅伝（NHK：1989～2005）、大阪国際女子マラソン（1990～現在）等テレビ・ラジオの解説があります。また、東京都・埼玉県・神奈川県のスポート推進審議会委員も務められてきました。公務多忙のなか国内外の学術発表にも積極的に参加され、まさに文教大学のなかの体育専修の名を世に知らしめる一翼を担ってこられた感があります。

体育専修の専任教員は5名、女性は梶原先生お一人ということもあり専門外でもあるダンスの講義を長年担当され、今でこそ「体Pダンス」として藍蓼祭で盛り上がりを見せている発表会を草創期からプロデュースされてこられました。なかにはこの「体Pダンス」を踊りたいからと本専修を志願する女子受験生がいるほどこのダンスの認知度は高く、ご指導されてきた梶原先生の存在意義は大変大きかったといえましょう。

お酒をこよなく愛し、グラスを傾けながら次の研究課題について熱く語られていたことが昨日のことのように思い起こされます。「加藤さんもしっかりやらなきゃだめよ」と叱咤激励してくださったことが幾度かありましたが、私にとっては忘れがたいことです。どうか先生、ご退職後も残った我々に引き続き研究のご指導を戴きたく存じます。そして先生の益々のご活躍を、我々体育専修教員一同はこの越谷の地から念じております。

（かとう じゅんいち 文教大学教育学部学校教育課程体育専修主任）